

未来を掴んで……

コクマルガラス

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

リハビリを兼ねて多作品クロスを書いてみる

本作品はpixivにもレイヴン名義で投稿しています

未来を掴んで……

目

次

未来を掴んで……

I S学園、そこは未来のI Sパイロットを育成するために作られた教育機関。

それ故、常に悪意ある第三者の介入がしばしばあった。
いつもなら、学園戦力のみで対応できた。

しかし、今回は違った……

世界初の男性I Sパイロットの登場。

それは、数多の組織（合法非合法問わず）にとつてあまりにも魅力的で、危険な存在
だつた。

結果、件の男性パイロットの確保、もしくは殺害を試みる組織が襲いかかるのだつた

……

唐突に襲撃を仕掛けてきた未確認I S部隊。

圧倒的な数の暴力。

それはどんどん学園戦力を削っていき、残されたのは、一年生の代表候補生達と現口
シア代表の生徒会長。

そして、件の男性ISパイロットのみ。

「ちょっとこれは不味いかもね……」

生徒会長『更識楯無』が呟きながら一機のISを機能停止に追い込む。が、多勢に無勢。

一瞬の隙を突かれ、襲撃者である、かつて学園を襲撃した無人ISの強化・発展型『ゴーレムIII』6機が彼女達を包囲しようとした、その時！

「ふんっ！」

「せいっ！」

彼女達から見て敵軍の右側から突っ込む白いIS『トーデシリッター』とグレーの機兵『漸雷重装強襲型』、オリーブドラブの機兵『ジム・ストライカー』。

左側から突っ込む大和撫子を体現した女性『大和』とグレーのIS『ペイルライダー』、白とブルーのツートンカラーの機兵『ジム・スナイパーIII』。

トーデシリッターが持っていた銃と剣が一体となつた大型兵器『エグゼクター』と漸雷重装強襲型が持っていた大型の両刃剣『ユナイトソード・デュアル』、ジム・ストライカーが持っていた薙刀『ツインビームスピア』がゴーレムIIIを切り裂き、大和とペイルライダーとジム・スナイパーIIIの蹴りがゴーレムIIIをぶつ飛ばす。

「俺達が前線を引き継ぐ。お前達は今の内に修復と補給を済ませろ」

トーデシリツターのパイロット『一夏・アークバード』はそう告げると彼らの返答を聞くまでもなく、仲間と共に戦場へと突っ込んで行く。

「ちよつ、待つ……!?」

「今 の貴方達は足手纏い、下がつてて」

尚も言い寄ろうとする彼等をペイルライダーのパイロット『簪・S・アークバード』は言葉を以て押さえつけるとトーデシリツター達を追つて戦場へと突っ込んでいった……。

C a t c h 来 を 摘 F u t u r e で

「敵に全弾叩き込め！ 一体も逃すな!!」

「言われなくとも!!」

「本当の戦争つて奴を教えてやるぜ!!」

ヒロイックな紫色の機兵『ゼルフィカール／N·E』、緑色の髪をボニー・テールにした重装備の少女『夕張』、マントを羽織った右目が眼帯の少女『木曾改二』、全身に大量の武器を装備した蒼い機兵『ケンプファー』、左右非対称の黒い騎兵『ウエアウルフ・スペクター』、黒のツインテールの少女『五十鈴改二』の三機と三人は円陣を組んで敵陣のど真

ん中で全方位に装備された重火器を撃ちまくる。

三機と三人の砲火によつてゴーレムIIIが次々と鉄くずと汚い花火に変貌していく。

く。

「ここは掃討した、次のポイントに移動する！」

「ラジャー！」

あらかたゴーレムIIIを駆逐した三機と三人はゼルフィカール／NEと木曾改二とウエアウルフ・スペクター、夕張とケンプファーと五十鈴改二の2チームに別れ行動開始。

そして。ゼルフィカール／NEのチームが孤立するゴーレムIIIの一群を発見。ゴーレムIIIのレーザーが撃ち込まれるも彼等には当たらず、そして……

「落ちろ!!」

ゼルフィカール／NEの遠近両用兵器『試作型光波射出器・近接モード』、木曾改二の軍刀型ヒートサーベル、ウエアウルフ・スペクターが右腕に装備した射突型ブレード『インパクトエッジ』がゴーレムIIIを粗大ゴミに変えていった……。

一方トーデスリツター達の方はというと……

「俺達が壁になる、簪と大和は敵に砲弾の雨を降らせ、ジム・ナイバーIIは狙い撃て」

「「「了解」」

三機が同時に返答。

トーデスリッター、漸雷重装強襲型、ジム・ストライカーの一人と二機がペイルライダーと大和とジム・ナイパーIIの壁になる様に展開し、重火器を前面に一斉射撃。

後方では大和が46cm三連装砲2基、15.5cm三連装砲2基による弾着観測射撃を行い、ジム・ナイパーIIがバイザーを下ろして狙撃を行い、ペイルライダーがVLSによる援護射撃を行う。

刹那、背後から彼等を狙い撃つ攻撃。

それを紙一重で躱すトーデスリッター達。

現れたのは、黒いIS……『黒騎士』と呼称される『亡国機業』所属のISだった。

「今日こそ始末してくれる、織斑一夏あ!!」

「俺は織斑じやねえ!!」

互いに叫ぶ両者。

「やらせませんよ!!」

「一夏は……殺らせない!!」

「狙い撃つ!!」

黒騎士へ攻撃を開始するペイルライダー、大和、ジム・ナイパーII。

一方トーデスリッター、漸雷重装強襲型、ジム・ストライカーは増援として現れたゴーレムIIIの相手を強いられた。

「チツ、邪魔だあ!!」

エグゼクターでゴーレムIIIをぶつた斬るトーデスリッター。

支援しようにもゴーレムIIIがワラワラと現れ、中々ペイルライダー達に近づけない。

その間にも黒騎士は彼女達に猛攻を仕掛けようとして……

「ここは任せろ!!」

まとわりつくゴーレムIIIを薙ぎ払つたゼルフィカール／NE、ウエアウルフ・スペクター、木曾改二のチームが自らの火器を撃ちまくりながらペイルライダー達と黒騎士の間に割り込む。

狩りを邪魔された事にキレたのか、それとも新たな敵にイラついたのか……

「邪魔するなあ!!」

「下がれ!!」

激昂と共に黒騎士が強烈な体当たりを木曾改二にかまそそうとするも、咄嗟にゼルフィカール／NEとウエアウルフ・スペクターが木曾改二を突き飛ばし、そのまま体当たりを受け止める。

「ぬう……」

「グツ?！」

ゼルフィカール／NEの左腕に装備されたアンカーシールドとウェアウルフ・スペクターの右肩に装備されたシールドが僅かに軋み声を上げる。

「このパワー、どうやら唯のISじやないようだな……」

「木曾、魚雷発射用意しとけ!!」

「このまま押しつぶしてやる!!」

黒騎士がスラスターの出力を上げようとした、その時……

「戦場で動きを止めたのが命取りだ!!」

漸雷重装強襲型、ジム・ストライカーの二機が自らの得物を構えて押し合い中の黒騎士に突撃。

この突撃を黒騎士は急上昇して回避するが……

「読み通りの位置に来たな」

トーデスリッターが袈裟斬りの要領でエグゼクターを黒騎士目掛け振り下ろす。

「チツ?！」

「踏み込みが足りなかつたか……」

咄嗟に瞬間加速で回避する黒騎士。
イグニッシュン・ブースト

と、そこへ……

「ぐあつ!?」

ケンプファー、夕張、五十鈴改二の二人と一機が回避行動中の黒騎士を強襲。ケンプファーが持つショットガンが、夕張の15.5cm三連装砲が、五十鈴改二の三式爆雷が次々と黒騎士に叩き込まれていく。

あまりのダメージに動きが止まる黒騎士。

そして、その隙を逃すという愚行を、彼女達はしなかつた。

「敵機捕捉、全主砲薙ぎ払え！」

「そこつ……！」

「…………」

大和の主砲たる46cm三連装砲が、ペイルライダーの肩部リニアキャノンが、ジム・スナイパーIIのロングレンジ・ビームライフルが火を噴き、黒騎士のアンロックユニットを、腕部装甲を次々と破壊していく。

「この……つ、雑魚共があ!!」

怒りと共に急上昇、そしてビットを展開し、逆襲しようと大和達を見つめる黒騎士。
だが……

「我々の存在を忘れてるな、貴様」

「本当の火力つてヤツを、教えてやるよ」

〔幽霊からは、逃げられんよ〕
〔スペクター〕

頭に血が上つて気付かなかつたのか、全ての兵装を文字通り展開したゼルフィイカール
／NEと木曾改二、ウエアウルフ・スペクターが黒騎士の背後を取つていた。

そして……

「ぶちかませ!!」

次々と撃ち込まれる銃弾や魚雷、エネルギー弾。

その苛烈な攻撃を受けた黒騎士は……

「馬鹿な…………こんな所で……」

あつさりと爆散四散するのだつた……

「これで、チエツクメイト……ムツ!?」

地響き。

大地が揺れ、轟音と共にIS学園の沖合からナニカが浮上する。

「あれは……」

「デビルガンダム……だと」

〔戦艦レ級のエリートに空母ヲ級のフラグシップも……〕

異形の化物、その頭部にはウサ耳を着けた女性が立つっていた。

そして……

「復活したと言うのか……一体どうやつて？」

先程爆散四散したはずの黒騎士がデビルガンダムの傍に悠々と浮いていた。
他にも学園祭を襲撃したIS『アラクネ』にUNKNOWNも、デビルガンダムの傍にいた。

「上等だ……第二ラウンドの開始だ！」

その言葉と共にトーデスリッター達が、補給と修復を終わらせた学園勢力が突撃するのだつた。